



## 依存関係レコード

---

この付録では、[Cisco Unified CallManager の管理] 内の依存関係レコードのウィンドウについて説明します。このウィンドウを使用すると、データベース内のどのレコードが特定のレコードを使用するかを判別できます。たとえば、どのデバイス（CTI ルート ポイントや電話機など）が特定のコーリング サーチ スペースを使用するかを判別できます。

Cisco Unified CallManager からレコードを削除する必要がある場合、依存関係レコードを使用すると、削除するレコードと関連付けられたレコードを表示することができます。次に、関連付けられたレコードを、別のレコードと関連付けるように再設定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- [依存関係レコードの使用可能化 \(P.A-2\)](#)
- [依存関係レコードの使用不可 \(P.A-3\)](#)
- [依存関係レコードへのアクセス \(P.A-4\)](#)
- [依存関係レコードのボタン \(P.A-5\)](#)

## 依存関係レコードの使用可能化

依存関係レコードにアクセスするには、まず依存関係レコードを使用可能にする必要があります。システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています。依存関係レコードを使用可能にする手順は、次のとおりです。



### 注意

依存関係レコード機能を使用可能にすると、CPU 使用率が高くなります。このタスクは、通常よりも低い優先度で実行され、ダイヤル プランの規模や複雑さ、CPU 速度、他のアプリケーションでの CPU 要求により、完了するまでに時間がかかる場合があります。

### 手順

**ステップ 1** [システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択します。

**ステップ 2** ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。

**ステップ 3** [Enable Dependency Records] ドロップダウン リスト ボックスから、[True] を選択します。

依存関係レコードを使用可能にした場合の影響について説明するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

**ステップ 4** [OK] をクリックします。

フィールドに [True] が表示されます。

**ステップ 5** [Save] をクリックします。

## 依存関係レコードの使用不可

依存関係レコードを使用可能にした後に、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合には、依存関係レコードを使用不可にすることができます（システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています）。依存関係レコードを使用不可にする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** [システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択します。

**ステップ 2** ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。

**ステップ 3** [Enable Dependency Records] ドロップダウン リスト ボックスから、[False] を選択します。

依存関係レコードに関するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

**ステップ 4** [OK] をクリックします。

フィールドに [False] が表示されます。

**ステップ 5** [Save] をクリックします。

---

## 依存関係レコードへのアクセス

Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウから依存関係レコードにアクセスするには、[関連リンク] ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウに表示されたレコードを使用するレコードの数とタイプが表示されます。



(注)

依存関係レコードが有効になっていない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます (レコードに関する情報は表示されません)。依存関係レコードを使用可能にするには、P.A-2 の「依存関係レコードの使用可能化」を参照してください。

たとえば、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウに Default デバイス プールが表示されている場合、[依存関係レコード] リンクをクリックすると、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウに、そのデバイス プールを使用するレコードがすべて表示されます (図 A-1 を参照)。

図 A-1 依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary) の例



依存関係レコードの詳細情報を表示するには、表示対象のレコードをクリックします (たとえば、トランク レコードをクリックします)。[依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウが表示されます (図 A-2 を参照)。元の設定ウィンドウに戻る場合は、[関連リンク] リストボックスから [要約に戻る] を選択して [移動] をクリックします。その後、[次に戻る :< 設定ウィンドウ名 >] を選択して [移動] をクリックするか、または [閉じて戻る] ボタンをクリックします。

図 A-2 依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail) の例



[依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウに表示されているレコードの設定ウィンドウを表示するには、レコードをクリックします。そのレコードの設定ウィンドウが表示されます。たとえば、図 A-2 に示されている h225trunk レコードをクリックすると、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウに、h225trunk に関する情報が表示されます。

## 依存関係レコードのボタン

[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウには、次の 3 つのボタンが表示されます。

- [リフレッシュ]：ウィンドウを現在の情報で更新する。
- [閉じる]：ウィンドウを閉じる。ただし、[依存関係レコード] リンクをクリックした Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウには戻らない。
- [閉じて戻る]：ウィンドウを閉じ、[依存関係レコード] リンクをクリックした Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウに戻る。

■ 依存関係レコードのボタン